

令和4年7月27日

令和4年度 総務経済委員会 行政視察報告書

伊豆市議会総務経済委員会 浅田藤二

日時 令和4年7月12日(火)～7月14日(木)3日間

①令和4年7月12日(火)午後 島根県邑南町役場



A級グルメの町らしく玄関に特産品のディスプレイ

A級グルメ



古い蔵を改装した雰囲気あるレストラン



石見和牛は絶品

② 令和4年7月13日（水）午前 広島県北広島町役場



庁舎は太陽光パネルでおおわれている



玄関には、お米コンテストのディスプレイ

道の駅 千代田

伝統である神楽の

太鼓が屋根の上に



グラウンドが併設され地域の
お年寄りがグラウンドゴルフを
楽しんでいた

③午後 地域商社ビレッジプライド邑南の取り組み

島根県邑南町食の学校



元保育園を改装

地元事業者とのメニューや商品開発

衛生管理指導

子どもたちに食を通じた学習プログラムの
実施

スーパー(ヒワココ)



農協が撤退後、GS とあわせて地域商社が運営

お年寄りが多く地域のニーズにより移動販売も実施

邑南そば千蓼庵



邑南そばの学校を併設

邑南そばの店舗開設のためのプロフェッショナル講座を開催

地産地消にこだわり、邑南町で生産されるそば粉を使用

チョウザメ飼育場



土木事業者が挑戦している。

軌道にのり、塩分の少ない日本産キャビアは高値で流通。

石見和牛繁殖牛飼育場

石見で育てられる繁殖牛は人気が高く、全国的に人気があり高値で取引される。地元に残してお



くことが難しくなり、石見和牛ブランド存続の危機だと報道がありました。

矢上高校、寮



島根留学により、生徒数が増え、存続の危機を脱出。寮があること(住むところの確保)が重要だと感じました。

地域商社ビレッジプライド本社



空き家を改装して、会社事務所にしている

空き家を活用した研修所や宿泊所が多くあり、伊豆市の空き家の活用方法の参考としたい

④令和4年7月14日(木)午前 原爆ドーム・広島平和記念資料館



生まれて初めて訪れた広島。資料館を見学し、平和の大切さを痛感し二度と悲慘な戦争を起こさせないことが私たちの役割だと再認識しました。

邑南町視察から感じたこと

『本当に美味しいものはちいきにあって、その美味しさを知っているのは地域の人々である。彼らが誇りを持ってつくる食は A 級であり、永久に残さなければならない。大都市に食材を販売するのではなく、素晴らしい食がある地域に、その食を求めて町の外から人々に来ていただく活動。』この理念が『A 級グルメ構想』です。

伊豆市は食材の宝庫です。今あるもので、多くの住民が携われるのは、食と農だと考えています。また、食料自給率が低く、輸入食材に頼らざるおえない現状を地域で生産し消費していくシステムづくりをつうじて解消していかななくてはならないと今回の視察から強く感じました。

また、地域おこし協力隊の制度を活用した『耕すシェフ』構想により定住者、起業家数は目標値を大きく上まわる結果となっています。伊豆市では、この町をこういう魅力的な町にしたいからこの分野に長けた地域おこし協力隊を採用したいという政策に基づいた採用をしているのでしょうか。

ぜひ、邑南町の取り組みを 1 例として移住が定住となり人口増につながるような地域おこし協力隊の採用に努力したいところです。

島根留学により矢上高校の生徒数は増え、学力レベルも上がったそうです。人気の理由は、魅力ある実業的な科の創設と地域商社ビレッジプライドと矢上高校の連携により高校の魅力化に力を入れてきた結果だと推察されます。土肥分校においても、E スポーツではなく、土肥だからできる海洋研究、サーフィン、ヨット、カヌーなどの海洋スポーツや海鮮料理などの科の創設は考えられないでしょうか。

北広島町視察で感じたこと

邑南町の地域商社ビレッジプライドは、職員が 30 名以上おり地域の活性化に大きく貢献していました。北広島町まちづくり会社はなえーるは、まだ、動き出したばかりでこれからという感じがしました。寺本英仁氏のアドバイスによりどのように変わっていくか注視していきたいです。

まとめ

どの地方自体も人口減少に歯止めがかからず悩むなか、邑南町では『A 級グルメ構想』により町全体をブランド化し認知度やイメージの向上につなげ、『日本一の子育て村』をめざすために徹底した移住者ケアを行いました。町には次々に、食を中心とした起業がおこり、若い世代の人口増につながっています。子育て世代のケアでは、中学生までの医療費無料、第 2 子目以降医療費無料。完全給食制。安心な医療体制(24 時間救急受付、産婦人科あり)などの政策を実現しています。

泉明石市長が子育ての施策について徹底することで、人口減少対策につながり、地域経済にも好影響があると強く訴えています。お金がないときほど子どもにお金をかける。本気で子どもを応援することがやがてみんなの幸せにつながっていく。子どもの未来は私たちの未来。子どもの未来は日本社会の未来だと今回の視察をつうじて強く感じています。

終わりに

研修終了後に、邑南町の
伊豆市を訪れたので議員 10



元スーパー公務員寺本英仁氏が
名で懇談会ができました。寺本

氏は、今年3月末で邑南町役場を退職し、全国の地方公務員のレベルアップのために会社を立ち上げ全国の地方自治体のアドバイザーとして多忙な日々を送っています。アフターコロナの時代は前例踏襲、横並びの重視をする公務員では生き残れないし、必要とされなくなる。自らが考え、行動する公務員を育てていかなければならないとこれからの自分の役割を話してくれました。伊豆市においても、スーパー公務員が生まれその考えや行動を認められる環境をつくっていかねばならないと思っています。市役所の職員は、住民にとってかけがえのない大切な人なのだから。